

## 第3章 INTERGLAD Ver. 7 基本操作方法

システムインストールおよび初期設定方法 .....1

A. スタート方法 .....10

### Q5: ファイルの保存(入出力)ができない

インターネット版には保存、Save 機能はないので、スタンダード版、CD フル機能版をご利用ください。また、Java Ver8 では、ローカル DB、ユーザーDB のファイル入出力ができません。※Java の Ver8 でも利用出来るシステム(暫定版) を用意しておりますが Java Ver7 での使用を推奨します。※Java Ver7 のダウンロードについては、Q6 を参照願います。

ファイルの保存(入出力)については、以下を参照願います。

- ・保存対象と保存形式
- ・保存先の設定

.....20

F. ユーザーデータベース登録・利用方法 .....31

F.1 データ登録 .....31

F.2 データ一括登録 .....33

F.3 ユーザーデータベース利用 .....36

### 付帯資料

1. 多次式重回帰分析について .....39

2. データ補間について .....40

3. 代表値について .....41

INTERGLAD のご使用が初めての方も、  
本章の基本操作方法により一通りの利用ができます。  
詳細はユーザーズマニュアル第4章をご覧ください。

## システムインストールおよび初期設定方法

INTERGLAD 利用形態（スタンダード版、インターネット版、CD フル機能版）によりシステムインストールおよび初期設定方法が異なります。また、使用する Java のバージョンにより、利用可能な機能、設定方法が変わります（下の一覧表を参照ください）。

1. インターネット版利用
2. スタンダード版利用
3. CD フル機能版利用（1. 2. 3. につき、主に Windows 10 の場合で説明）
4. スタンダード版、CD フル機能版のアップデート方法
5. 新 INTERGLAD サーバーへの移行に伴う接続先変更方法

### INTERGLAD Ver. 7 利用形態、利用可能機能、設定

特に関連する箇所です  
(赤字部)

#### 1. インターネット版：システムのインストール不要、最新のデータでファイル入出力およびユーザーデータ以外のフル機能が利用できます

システムインストール	インターネット接続	認証	Java (32bit)	利用データベース <sup>1)</sup>	利用機能					パソコン			
					検索	解析	予測設計	印刷 <sup>2)</sup>	ファイル入出力 <sup>3)</sup>	ユーザーデータ変換・登録	動作環境	バッチファイル書き換え	
不要	要	サーバー (ID, PW)	Ver. 7	サーバーDB	○	○	○	○	×	—	Windows Linux Mac OS X	—	—
			Ver. 8		○	○	○	○	×	—		—	—

#### 2. スタンダード版：最新のデータでフル機能が利用できます (Java Ver. 7 使用の場合) 最新のデータでユーザーデータ以外のフル機能が利用できます (Java Ver. 8 使用の場合)

システムインストール	インターネット接続	認証	Java (32bit)	利用データベース <sup>1)</sup>	利用機能					パソコン			
					検索	解析	予測設計	印刷 <sup>2)</sup>	ファイル入出力 <sup>3)</sup>	ユーザーデータ変換・登録	動作環境	バッチファイル書き換え	
要	要	サーバー (ID, PW)	Ver. 7	サーバーDB	○	○	○	○	○	—	Windows Linux* Mac OS X* (*サーバーDBのみ)	要 <sup>5)</sup>	要 <sup>6)</sup>
				ローカルDB	○	○	○	○	○	—			
				ユーザーDB	○	○	○	○	○	○			
			Ver. 8	サーバーDB	○	○	○	○	○	—		不要	不要
				ローカルDB	×	×	×	×	×	—			
				ユーザーDB	×	×	×	×	×	×			
暫定版 <sup>4)</sup> 解冻	要	サーバー (ID, PW)	Ver. 8	サーバーDB	○	○	○	○	○	—	Windows Linux Mac OS X	不要	不要
				ローカルDB	○	○	○	○	○	—			
				ユーザーDB	○	○	○	○	○	×			

#### 3. CDフル機能版：インターネットに接続せず、フル機能が利用できます (Java Ver. 7 使用の場合) インターネットに接続せず、ユーザーデータ以外のフル機能が利用できます (Java Ver. 8 使用の場合)

システムインストール	インターネット接続	認証	Java (32bit)	利用データベース <sup>1)</sup>	利用機能					パソコン			
					検索	解析	予測設計	印刷 <sup>2)</sup>	ファイル入出力 <sup>3)</sup>	ユーザーデータ変換・登録	動作環境	バッチファイル書き換え	
要	不要	アクセスキー	Ver. 7	ローカルDB	○	○	○	○	○	—	Windows	要 <sup>5)</sup>	要 <sup>6)</sup>
				ユーザーDB	○	○	○	○	○	○			
			Ver. 8	ローカルDB	×	×	×	×	×	—		—	—
				ユーザーDB	×	×	×	×	×	×			
暫定版 <sup>4)</sup> 解冻	不要	アクセスキー	Ver. 8	ローカルDB	○	○	○	○	○	—	Windows Linux Mac OS X	不要	不要
				ユーザーDB	○	○	○	○	○	×			

(注)

1) 利用データベース

- ・サーバーDB: ニュージャスフォーラムのINTERGLADサーバー中のデータベース(常に最新のデータを利用可能)
- ・ローカルDB: ユーザーのパソコンにインストールされたINTERGLAD中のデータベース(Web上あるいはCD中のINTERGLADシステムをダウンロードして使用)、毎年更新
- ・ユーザーDB: ユーザーによりINTERGLADに登録されたデータのデータベース(ユーザーのパソコン中に保管)、サーバーDB、ローカルDBと一緒に検索等の使用可能

2) 印刷: 表全体(画面に現れていない部分も含め)、図の印刷ができます

3) ファイル入出力: 検索条件、検索結果、解析結果、予測結果等のデータ保存(ユーザーのパソコン中への画面データのCSVあるいは画面保存)





4) 暫定版: Java Ver. 8で利用できるよう、JDBCおよびUCanAccessを利用した版 (Java Ver.8にODBCデータソースへのアクセス機能がなくなったため暫定的に作成したもの)

5) 32bit バッチファイルの書き換え 冒頭の「java」 → 「"c:\Program Files\Java\jre7\bin\java.exe"」 Java Ver. 7のみがインストールされている場合には書き換え不要

6) 64bit バッチファイルの書き換え 冒頭の「java」 → 「"c:\Program Files (x86)\Java\jre7\bin\java.exe"」 Java Ver. 7のみがインストールされている場合にも書き換え不要

なお、INTERGLADは特性データベースと構造データベースより構成されます。構造データベースには予測・設計機能、ユーザーデータ機能がありません。また英語版のみとなります

# データの保存：（何をどの形式で保存し、再利用するか）

保存対象↓ ・ 形式→	保存 		保存画面開 	CSV保存 	印刷 	
	画面保存	画像保存			画面印刷	画面データ印刷
特性(構造) <b>検索条件</b>	○		○		○	
特性(構造) <b>検索結果</b>	○		○(検索条件に戻れる)	○(表のみ)	○(表のみ)	
特性(構造) 結果詳細						○(表形式)
出典リスト				○(csv)	○	
同一出典リスト						○(表形式)
三角図		○(jpg)			○	
XYプロット		○(jpg)			○	
温度-特性プロット		○(jpg)			○	
補間		○(jpg)			○	
元素解析		○(jpg)			○	
特性予測式画面					○	
重回帰分析検索画面	○		○		○	
重回帰分析検索結果画面	○		○(実行画面も開く・検索画面に戻れる)	○(表のみ)	○(表のみ)	
重回帰分析実行画面				○(csv表のみ)	○	
重回帰分析検証画面					○	
特性予測画面				○(回帰式のみ)	○	
組成最適化画面				○(回帰式のみ)	○	

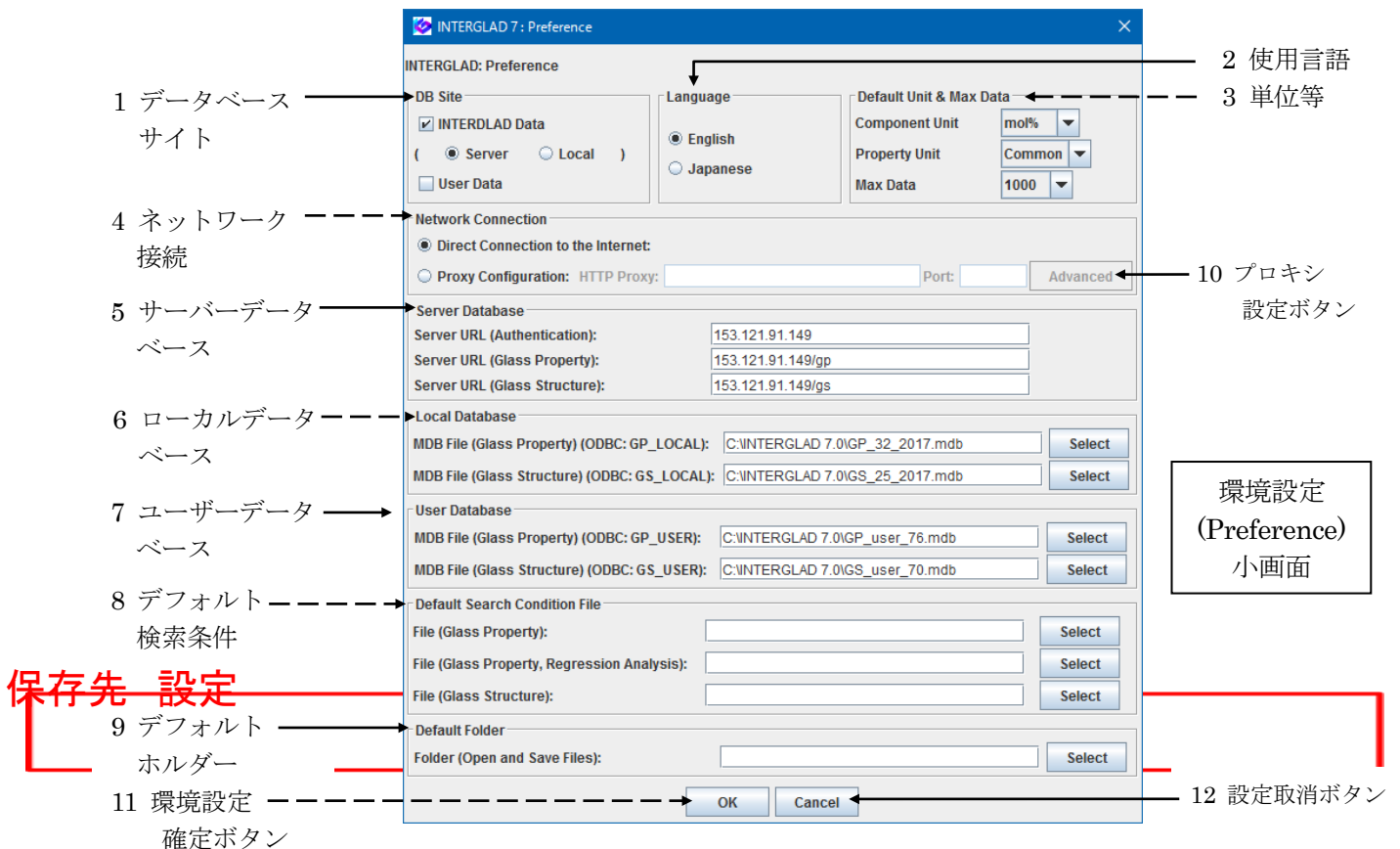
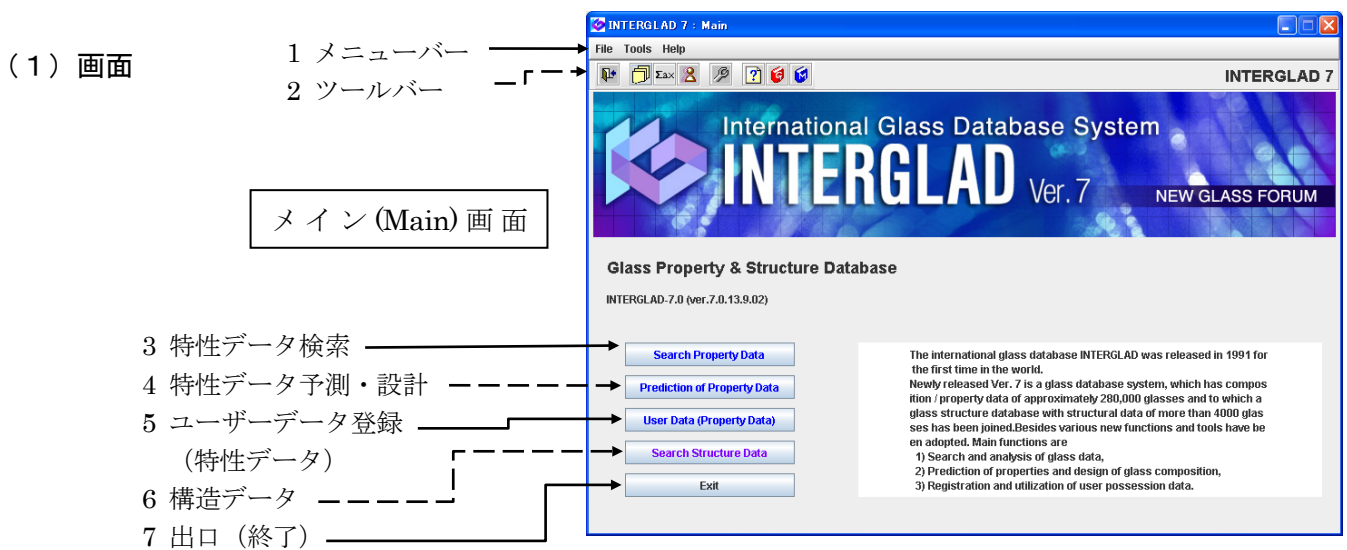
\* 保存した画面はINTERGLADの各画面(検索、検索結果画面)で開く。 / 画像とCSVはINTERGLAD外で取扱可能。

小数点にはカンマ(,)を使用せず、ピリオド(.)を使用してください。  
入力後 **Enter** キーを押して確定します。

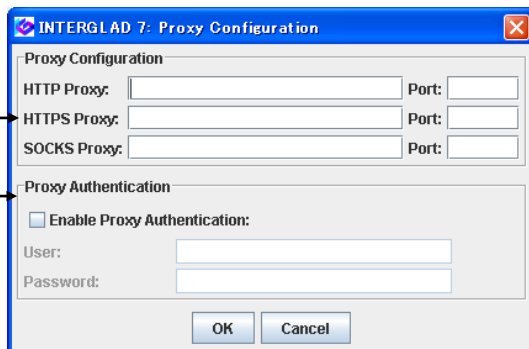
- ・小画面選択 (水色) : ダブルクリックで表示される小画面からクリックして選択します。
- ・プルダウンメニュー選択 : 右端の[▼]をクリックすると、選択項目のリストが表示されるので、選択したい項目をクリックします。
- ・チェックボックス選択 : オン(  ) / オフ(  )を表わします。クリックによりオンオフを切替えます。また、項目にマウスポインターを当てると項目説明が現れます (すべてではありません)。画面右上の×印をクリックすると、画面が閉じられます。

## 1. 2 メイン (Main) 画面

INTERGLAD Ver.7 起動後にメイン画面が表示されます。




- 1 プロキシ IP アドレス、  
ポート入力欄
- 2 プロキシ認証  
ユーザーID、パスワード  
入力欄



プロキシ設定  
(Proxy Configuration)小画面

## (2) 詳細説明

メイン画面の各ボタンをクリックすることにより、実施したい検索・予測等の画面が開きます。EXIT ボタンのクリックにより、INTERGLAD システムが終了します。メニューバーの Tools から Contents of Property Data、Contents of Glass-Forming Region、Contents of Structure Data をクリックすることにより、それぞれの収録データ数を知ることができます。Contents of Property Data からは、全ガラス数（組成等のデータセットの数）の他、リストを展開していくことにより、ガラス状態、外観・特徴・製法、用途、出典、成分、ガラス汎用名（系）、特性の各項目別のガラス数を知ることができます。Contents of Structure Data からも、全ガラス数の他、ガラス状態、形状、測定方法、出典、成分、ガラス汎用名（系）、構造情報の各項目別のガラス件数を知ることができます。また、Contents of Glass-Forming Region からはガラス化範囲データが収録されている 2 成分あるいは 3 成分の組成系の数を知ることができます。また、Help から Check Update をクリックすることにより、新バージョンを確認・ダウンロードできる Web ページに進むことができます。

また、ツールバー中の環境設定 (Preference) アイコン をクリックすると環境設定 (Preference) 小画面が表示され、環境 (初期条件) を設定できます。各条件を設定後、OK ボタンをクリックして画面を閉じます。Cancel ボタンをクリックすると、設定条件はすべてその設定前に戻り、画面が閉じられます。以下、環境設定小画面につき説明します。

### ① データベースサイト ⇔ 環境設定小画面 1

- ・INTERGLAD データ使用の場合、サーバー (Server) かローカル (Local) のラジオボタンをクリックします。サーバーDBはニューガラスフォーラムの INTERGLAD サーバー中のデータベースで、常に最新の更新データを利用可能です。ローカル DB はプログラムのダウンロードあるいは CD よりパソコンにインストールされたデータベースです。ローカル DB は少なくとも年 1 回更新されます。
- ・INTERGLAD データおよびユーザーデータの両方を使用の場合には、ユーザーデータ (User Data) のチェックボックスもクリックして✓を入れます。ユーザーDBはユーザーにより INTERGLAD に登録されたデータのデータベースで、登録パソコンでのみ利用可能です。
- ・ユーザーデータのみを使用する場合には、ユーザーデータのチェックボックスのみに✓を入れます。

### ② 使用言語 ⇔ 環境設定小画面 2

- ・英語、日本語の内、使用したい言語のラジオボタンをクリックします。

### ③ 単位等 ⇔ 環境設定小画面 3

- ・成分単位(Component Unit)をプルダウンメニューより選択してクリックします。
- ・特性単位 (Property Unit) を選択します。デフォルトの Common はそれぞれの特性で一般的と考えられる汎用単位です (第 6 章 5.1 特性データベース ID リスト参照)。
- ・検索データ最大数を選択します。
- ・デフォルト (初期設定) 値で良い場合には、設定の必要はありません。
- ・これらの選択は検索画面でもできます。

### ④ ネットワーク接続(Network Connection) ⇔ 環境設定小画面 4, 10、プロキシ設定小画面

- ・インターネット直接接続の場合には、Direct Connection to the Internet を選択します。
- ・プロキシ使用の場合には、Proxy Configuration を選択し、プロキシ設定(Advanced)ボタンをクリックすると、プロキシ設定小画面が開きます。この小画面で、IP アドレスおよびポートをインプットします。プロキシ認証が必要な場合には、Enable Proxy Authentication チェックボックスをチェックし、ユーザーIDおよびパスワードを入力し、最後に OK ボタンをクリックします。



- ⑤ サーバーデータベース(Server Database) ⇔ 環境設定小画面 5
- ・検索対象となる特性および構造データベースサーバーを確認、また変更できます。通常は操作の必要はありません。
- ⑥ ローカルデータベース (Local Database) ⇔ 環境設定小画面 6
- ・検索対象となる特性および構造ローカルデータベースを確認、また変更できます。選択(Select)ボタンをクリックし、[開く]小画面を開き、通常、最新のデータベース mdb ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。通常は操作の必要はありません。ローカルデータベースとして ODBC 設定されたファイル名が表示されます。プログラムをアップグレードした際には、新たに ODBC 設定が必要になる場合があります。
- ⑦ ユーザーデータベース(User Database) ⇔ 環境設定小画面 7
- ・登録および検索対象となる特性ユーザーデータベースを確認、複数設定の場合に選択、また保管場所の変更ができます。通常は操作の必要はありません。
- ⑧ デフォルト検索条件(Default Search Condition File) ⇔ 環境設定小画面 8
- ・保存された検索条件の内からデフォルト (初期設定) とする検索条件を選択できます。Select ボタンをクリックし、検索条件ファイルを選択してクリックします。
  - ・特性、特性/重回帰分析、構造のいずれについても設定できます。
- ⑨ デフォルトフォルダ(Default Folder) ⇔ 環境設定小画面 9
- ・検索・解析等のデータを保存するデフォルトフォルダを選択できます。Select ボタンをクリックし、デフォルトとするファイルを選択してクリックします。